

乳がんの薬物治療の進歩

城里町国保七会診療所 上井 雅哉

乳がん細胞表面に特定のたんぱく質が過剰に存在すると、がん細胞が増殖するスイッチが入り、細胞内に伝達されます。それにより細胞内の遺伝子が活性化・連鎖的経路により、細胞増殖が引き起こされ、異常な細胞を死滅し排除する体内の機構が抑制されます。

特定のたんぱく質を過剰生産する乳がん細胞のみを攻撃する、薬物治療についてご紹介します。

特定のたんぱく質を過剰生産するがん細胞を見つけ出し、その細胞のみを標的とする発想で開発された治療を『分子標的治療』と呼びます。

■ ホルモン療法(内分泌療法)

乳がん患者の70～80パーセントは、エストロゲン(卵巣ホルモン)やプロゲステロン(黄体ホルモン)の過剰生産が関連するホルモン受容体陽性であり、ホルモン療法が有効です。エストロゲンやプロゲステロンの受容体(細胞表面のホルモンを取り込む口)は、健常組織や腫瘍に存在し、増殖に作用します。その点で薬剤によって直接攻撃できると捉えれば、広い意味での分子標的治療と言えます。

手術後ホルモン療法を閉経前女性に行う場合、抗エストロゲン薬を5年間用いるのが一般的です。乳がん細胞表面のエストロゲン受容体をふさぎ、増殖できなくすることが狙いです。

また、閉経後女性には、アロマターゼ阻害薬(または抗エストロゲン薬)を用います。アロマターゼとは、閉経後に副腎で生産されたアンドロゲン(男性ホルモン)をエストロゲンに変換する過程で働く酵素です。この経路で生産されるエストロゲンは少量ですが、腫瘍増殖を刺激する可能性があり、アロマターゼ阻害薬はそれを抑えます。

■ 分子標的療法

乳がん細胞を増殖させる異常なたんぱく質が、乳がん細胞の表面に過剰生産されている場合、それらの働きを抑える薬剤が開発されました。

固形がんに対し分子標的療法が最初に適用されたのは、「HER2^{ハーツ}たんぱく(=ヒト表皮成長因子受容体2型)」でした。乳がんの15～20パーセントがHER2陽性で、増殖が盛んで浸潤しやすい乳がんです。

治療薬には、HER2分子に結合することで免疫反応を引き起こし細胞を破壊する、免疫抗体たんぱくや抗体に毒素(抗がん剤)を結合されたものが開発されています。

このほかにも、血管内皮成長因子の阻害、すなわちがん細胞に栄養や酸素を運ぶ血管が新生されるのを抑える薬も利用可能となりました。

乳がんへの薬物治療の選択肢が増えたことで、手術や放射線治療の組み合わせ、再発防止の治療が増え、がん患者の生存率上昇につながることでしょう。

同時に、乳がん検診受診率の上昇が早期発見・早期治療につながることを再認識したいと思います。



地域おこし協力隊による映画鑑賞会「しろさとまちなか映画館」を開催します。

しろさと
まちなか映画館



会場前のスタジオ広場では「しろさとマルシェ」と銘うち、個性あふれるお店が出店し、飲食・クラフト・農産物などを販売します。入場無料ですので、ぜひご来場ください。

日時 9月9日(土)

会場 コミュニティセンター城里 ホール
上映時間・作品

○午前の部/午前10時～正午
「ティファニーで朝食を」

○午後の部/午後2時～4時
「ミニオンズ」

問合せ 地域おこし協力隊 ☎029-297-8288

道の駅かつら

御前山と那珂川の自然を知ろう!

那珂川の河原で水生生物調査や、城里町産の野菜でバーベキューをします!ぜひ、ご参加ください。

日時 8月26日(土) 午前10時～午後1時30分

(受付開始/午前9時30分から) 小雨決行

※天候により、イベント内容が変更になることがあります。

参加費 大人:800円 子ども(中学生以下):400円

※バーベキュー代、保険料含む

定員 50名(先着順)

申込方法 ハガキ、FAX、電子メールのいずれかで参加者の①氏名、②年齢、③代表者連絡先(電話番号、住所)を記入し、申込先までお申し込みください。

申込期限 8月21日(月)必着

申込先・問合せ 城里町観光協会(まちづくり戦略課内)
(〒311-4391 城里町石塚1428-25)

☎029-288-3111(内線225) ☎029-288-3113

✉event@m-katsura.com